

ひとまち 人と人のつながり

5月20日、川越運動公園で「繋がる川越未来へ向けて」をテーマに「キッズフットサル夢プロジェクト」が開催されました。初めて出会った子どもたちが新しくチームを作るところから始まったこの企画。初めは人見知りをしていた子どもたちも、練習を重ねるうちに打ち解けてきました。その影には、1チームに1人、コーチとして付いた大学生ボランティアの存在がありました。

●練習会1日目(4月21日)

チームメイトとの出会いの日。まだ新しいチームに慣れない様子の子もたちは、ブラインドサッカーを体験。目隠しをして、鈴の入ったボールを使い、チームメイトの声を頼りにパスやドリブルの練習をしました。この練習は、互いに助け合うことの大切さを感じてもらうために取り入れたそうです。

指導にあたる東京国際大学の福島岳さん(1年生)は、もともと子どもが好きで今回のボランティアに参加。「子どもたちと一緒に練習をしていると、サッカーを楽しむ原点を思い出させてくれます」。

●練習会2日目(5月13日)

大会1週間前に再び集まった子どもたち



第1回目に行われたブラインドサッカー



市原さんによるフットサル教室

ち。この日は元

フットサル日本代表選手・市原誉昭さんによる教室を開催。一流選手の指導を受けることで、子どもたちの団結力は高まりました。福島さんは、「練習を重ねるうちにコミュニケーションが活発になってきました。1回でも多く勝たせてあげたいですね」と話してくれました。

●大会当日(5月20日)



小林さんの周りにはすぐに子どもたちの輪ができます



「子どもたちとは自然体で接するようになっています」と福島さん

それぞれ

チームが一丸となり練習の成果を発揮した大会。会場は熱気に包まれました。「試合の勝ち負けよりも向上心を育ててあげたい」と話すのは、尚美学園大学の小林裕太さん(2年生)。子どもたちは小林さんのことを「楽しいお兄さん。もつと一緒に試合がしたい」と、すっかり打ち解けた様子。大会終了後、小林さんに話を聞くと「子どもたちが言う事を聞いてくれないこともあったけど、みんなで協力して、決勝まで進むことができました。とてもいい経験になりました」。

大会終了後、元サッカー日本代表の前園真聖さん(下写真)と三浦淳寛さん(下写真左)が決勝進出チームに加わってエキシビションマッチが行われました。プロの技を目の前で見た子どもたちは大興奮。夢のような時間を過ごしました。

同プロジェクトを企画した川越青年会議所の笛木正司さん(左写真)は、「子どもたちは助け合って最後までやり抜くことができました。今回の経験を忘れずに、協力して困難を乗り越えられる大人になつてもらいたい。つながりを大切にしながら、一人ひとりが目標や夢を実現してほしいですね」と話してくれました。



協力して困難を乗り越えられる大人になつてもらいたい。つながりを大切にしながら、一人ひとりが目標や夢を実現してほしいですね」と話してくれました。



エキシビションマッチ

遠くまで飛んだよ



大東公民館で5月12日に「おもしろ実験室・滞空競技用紙飛行機を作ろう」が行われました。参加した11人の小学生は、なぜ飛行機が空を飛ぶのかを教わり、翼を付ける位置などを考えながら作製に取り組みました。ジェット機が大好きという溝江勇希君(4年生・豊田町2丁目)は、「きっと遠くまで飛ぶと思う」と自作の飛行機に自信たっぷりの様子。飛行機が完成すると、みんなで大東中学校の体育館へ移動。勢いよく放たれた飛行機は、体育館の端まで飛んでいきました。



着物が似合うまち



5月3日、蓮馨寺で「小江戸川越きものファッションショー」が行われました。当日は、あいにくの雨の中、47人が参加。さまざまな着物をまとい、ステージ中央で決めポーズ。手作りの浴衣で参加した川越工業高校の生徒や、忍者姿の親子も登場し、会場に花を咲かせました。

ひとまち ふおとニュース



神谷健三さん(38歳・砂新田)は家族で参加。「川越は着物が似合うまちだと思います。今度は晴れた日に着物で出かけてみたいですね」



行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸あるき

ひとまち



バスケットボールを太陽に、ピンポン玉を月に見立てて、見え方を体験。



天候に恵まれた、金環日食当日。川越第一小学校校庭で。

川越第一小学校では、金環日食の観測に向けて、日食という現象の仕組みや、観測の仕方について勉強しました。めったに見ることのできない天体ショーに興味津々の子どもたち。町田裕太郎君(6年生)は「日食の仕組みがよく分かったので、当日が楽しみです。晴れるといいな」と笑顔で話してくれました。漫画や映画の話も飛び出し、宇宙に関する関心は高まっているようでした。理科主任の小野寺久先生に話

を聞くと「体験して学ぶ授業を実践しています。そこから生まれた新たな疑問を、自ら調べ解決する力をつけてもらいたいです。そして、将来の夢や仕事につなげてほしいです」。

5月21日、同校では登校時間を早め、全校児童で観測会を実施。7時31分に金環日食が始まると、あちらこちらで歓声があがりました。「輪になったときが一番きれいだった」「神秘的だった」と子どもたち。中には「18年後に北海道でまた見たい」の声も。

遠い宇宙の出来事は、地球の子どもたちに、未来へつながる光の輪を届けてくれました。

「世紀の天体ショー」次は何年後？